

# 明日に架ける橋

2024年度 進路だより 第4号  
兵庫県立明石高等学校進路指導部  
2024年9月4日発行

## 共通テストの出願が始まります

いよいよ新学期が始まりました。3年生は、夏季補習の出席率が前・中・後期とも非常に高く、また毎日19時まで多くの方が自習室で真剣に勉強する姿が見られ、今からの受験本番がとても楽しみです。1、2年生も、すぐにやってくる進路実現に向けて、じっくり勉強した夏季休業になったことと思います。

7月18日に発行した「進路だより第3号」で今年度の受験スケジュールをお知らせしましたが、3年生を対象に本日共通テスト説明会を実施し、17日を校内締め切りとして2025年度大学入学共通テストの出願が始まります。今年度の大学入試は、新課程になって最初の入試ですので、特に共通テストでは大きな変更が見られます。「進路の手引き」で詳しく記していますが、今年度の共通テストの概要、変更点を簡単にまとめますので、3年生はもちろん、1・2年生も今のうちから内容を十分に理解してください。

## 共通テスト 出題教科・科目

【国語】 200点 90分

近代以降の文章3問110点、古文1問45点、漢文1問45点

【英語】 リーディング 100点 80分、リスニング 100点 解答時間30分

\*ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語での受験も可能(出願時に申請)

【地歴・公民】 1科目 100点 60分、2科目 200点 120分

下記の6科目から1～2科目を選択

(b) 「地理総合・地理研究」「歴史総合・日本史探究」「歴史総合・世界史探究」「公共・倫理」「公共・政治経済」

(a) 「地理総合・歴史総合・公共」より2つを選んで解答する。(50点×2)

\* bから2科目を選択する場合 「公共・倫理」と「公共・政治経済」を選択することはできない。

\* bから1科目、aの「地理総合・歴史総合・公共」を選択する場合 aで選択するものと同一名称を含む科目をbから選択できない

(例) bで「歴史総合・日本史探究」→aは「地理総合・公共」で受験

【数学】 ①100点 70分、②100点 70分

①下記の2科目から1科目を選択

「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅰ」

②「数学Ⅱ・数学B・数学C」 数学Bおよび数学Cについては、4項目のうち3項目を選んで解答する。

【理科】 1科目 100点 60分、2科目 200点 120分

下記の5科目から1～2科目を選択

「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」

\* 「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」は4つの基礎科目のうち2つを選んで解答する。(50点×2)

【情報】 100点 60分

「情報Ⅰ」

今年度の共通テストから、上記のように変更になります。従来より複雑で、早いうちからの準備・勉強が必要です。各教科に関して不明の点があれば、1・2年生も含めて早急に教科担当の先生まで尋ねてください。

## 共通テストの必要性

2025年1月18・19日に実施される今年度の共通テストですが、どのような場合に受験が必要なのでしょうか。

【国公立大学の一般選抜】

国公立大学の一般選抜は、原則「共通テスト」と各大学独自の「個別試験」(いわゆる2次試験)の合計得点で可否を判定します。ほとんどの大学が「前期日程」と「後期日程」に定員を振り分けて個別試験を実施する「分離分割方式」を採用しています。これに加えて一部の公立大学では「中期日程」の試験も行われるため、最大3校の国公立大学に出願することが可能です。必要教科・科目は大学によって異なりますので、十分な注意が必要です。

【国公立大学の学校推薦型選抜】

国公立大学の学校推薦型選抜は、原則公募制推薦で行われます。9月27日の校内推薦会議で選考されれば、出願が可能です。昨年度の入試では、国立大学の93.9%、公立大学の99.0%が学校推薦型選抜を実施しています。このうち、共通テストを課す選抜は、国立大学74.4%、公立大学40.2%でした。国公立大学全体では55.9%で、半数以上の大学が推薦といえども共通テストが必要です。必要な教科・科目も大学によって異なりますが、可否判定の方法は、書類審査+小論文+面接+共通テストの成績などによって、総合的に判断されます。出願段階で、3年生1学期までの評定平均値が5段階で4.2以上など、高い評価が必要ですので、1年生の間から定期考査をしっかりと頑張り、面接でアピールできるような特別活動の成績を残すことも重要です。

明石高校の多くの先輩が、この選抜方式で国公立大学に進んでいます。先を見据えて、今頑張りましょう！

【私立大学の一般選抜】

私立大学の「総合型選抜」「学校推薦型選抜」が間もなく始まります。受験生の心理として「早く進路を決めたい」は必ず起こり得ると思いますが、第一志望を決めたならば揺らぐことなく、その大学に向かってください。第一志望校の入試に「総合型選抜」「学校推薦型選抜」があれば、受験機会は増やせばよいと思います。しかし、いわゆる滑り止めとしてランクを下げた大学の「学校推薦型選抜」を受験すれば、その大学に落ち着いてしまうという例は非常に多いです。

併願可の「学校推薦型選抜」に合格すれば、ほとんどが年内には入学金20～30万円程度を納めなければなりません。その「入学金がもったいないからここでいいや」「行く大学ができたから2月まで必死に勉強しなくても大丈夫」などの、心理が知らず知らず働いて、2月の第一志望校「一般選抜」受験に力が入らず、残念な結果に終わってしまいます。将来後悔しないために、最後まで第一志望校に挑みましょう。

私立大学の「一般選抜」は複数回チャンスがあります。受験日程の作戦を立てることが大切です。(受験日程の作戦の立て方は、後日の進路だよりでお伝えします)これと並行して活用してほしいのが、「私立大学の共通テスト利用選抜」です。昨年度の入試で「共通テスト利用選抜」を実施した私立大学は530校、私立短大は134校に上ります。私立大学共通テスト利用選抜のメリットは、①受験料が安い、②出願するだけで可否判定してくれる(個別試験を受験しなくてもよい) ということです。志望大学の受験機会を増やすためにも、共通テストを受験しましょう。この場合の共通テスト必要教科は、大学や受験型によって様々ですが、「一般選抜」と同じ2～3教科が大半です。事前によく調べましょう。



3年生は夏季休業中、連日、補習を受けるために多くの方が登校し朝7時から夜7時まで自習室も大盛況でした。お盆前後の1週間は補習はありませんでしたが、自習室はいっぱいでした。受験は団体戦です。受験に向かう頼もしい3年生集団の姿がキラキラと輝いていた夏でした。